

病院を核としたまちづくり推進特別委員会記録

開催日時 平成27年11月26日(木) 13:03~14:06

開催場所 第1委員会室

出席委員 9名

森山 賀文 委員長
小泉 米造 副委員長
池田 慎久 委員
中川 崇 委員
大国 正博 委員
中野 雅史 委員
荻田 義雄 委員
出口 武男 委員
山村 幸穂 委員

欠席委員 なし

出席理事者 渡辺 医療政策部長 ほか、関係職員

傍聴者 なし

議 事

(1) 当面の諸課題について

(2) その他

<質疑応答>

○森山委員 それでは、ただいまの報告またはその他の事項も含めまして質疑があればご発言をお願いします。

○荻田委員 今、中川医療政策部理事から西の京県有地活用事業のご説明をいただいたわけですが、きょう午前中に地元説明をされたのでしょうか。これから行くのですか。

(発言する者あり)

言うことがありましたら訂正しておいてください。

実は、きょう、連絡を受けました。地区の連合会からは、こういった説明を受けたのですと。しかし、こういった事業について、民間主導でやられることに関して、いささか私どもとして意見がありますということでした。特に、地元の地域住民のよりどころである場所をぜひ設置してほしいという願いを、この病院建設が始まる前からされてきたのも事

実です。そして、現在六条地区では6,000世帯、約1万6,000人、こういった人口密度のある場所でございます。新病院をつくることによって医療の充実を図っていくという思いはあるものの、西の京自動車学校の跡地利用に関しては、地域にあっては、地元が利活用を自由にでき得るような施設をぜひお願いできないものだろうかということが大きなお話でもございました。周辺地域と調和のとれたまちづくりをぜひやってほしいということをおっしゃっていただきました。民間のこのスペースの中で提案機能を持たされています地域に開かれた病院となるよう、病院関係者・来訪者と地域住民等の多世代交流を促す機能、その中に屋内として多目的スペース、オープンカフェ、温浴施設がありますと、具体例としてこういうものを県としては地域のためにということだろうと思います。

しかし、県の資本でどんどんやられると、職員の住宅や保育所施設、病院に関係する諸施設は充実できている。しかし、一番の問題は、地域にとっていい施設であるということが大事だと思います。そのためには、使い勝手のいい集会施設あるいは100人規模で入れるような施設、さらには医療講座、あるいは若者や地域の方々が体操をしたり、いろいろなふれあいを感じられるような施設づくりをぜひお願いしたいということでした。

その中で、民間に委託をされるということは、使用料が発生するのではないかと思うのです。これからいろいろ検討されて業者を決めてやられる中で、ぜひとも地域にとっていい施設であると、連合会としても、自治会としても、万年青年クラブとしても、子どもたちとしても、ふれあいを感じられるような諸施設をぜひ対応方お願いしたいと思うのですが、その辺についてご意見をお聞かせいただきたいと思います。

○中川医療政策部理事 失礼をいたしました。先ほど報告を受けたところですが、けさ方、六条連合会に、本日の資料の一部を使わせていただいてご説明に行かせていただいて、荻田委員がおっしゃるような部分については、同じようなことを聞いて帰ってきたと連絡を受けております。

もともと六条連合会からは種々要望を受けておりますし、その中で連合会とも定期的な意見交換の場を持っております。新病院のことも含めてになると思いますけれども、いいまちにしていきたいという連合会の役員のご意見を聞いております。今回の募集にあたりましても、民間の提案部分につきましては、もともと構想のときにも、新病院あるいは地域との交流ができるようなという表現を入れてはいますが、例示としてできるだけ民間の提案でもこういうところに特に配慮していただくようにと。きょうの資料にはそこまで書いておりませんが、審査の基準でもそこら辺の提案には分厚い配点をしていた

だくということで用意をしております。今後、正式に公告を出させていただいて、まず、提案いただくことが大事だと思いますけれども、その中でこちらの意図しているような提案を出していただきますように、また、そういう審査が進められるように期待をしているところでございます。

○荻田委員 今、中川医療政策部理事から話がありましたけれど、文書には書いていない、しかし、それは伝えていきますということでもありました。そういうことが、六条地区の自治連合会、住民の方々に疑念を持たれるのではないかと思うのです。500億円以上の投資をして、道路も含めて新病院が建設される。非常に結構なことだと思います。しかし、その地域にあって、先ほども申し上げましたように、職員住宅だの、あるいは保育所だの、そこで勤められる方々には新しくて、いい施設だから結構です。六条地区の人たちが実際にそういった思いを持って、まちづくりと一緒に進めていこうということでありまして、使い勝手のいいように、まだこれから始まるところでございますから、審査をされていく中で、決まった業者といろいろ協議もされるわけでございますけれども、この辺は間違いないように、減免措置なども含めて対応をするということをお願いしたいと思うのです。

この辺について、医療政策部長としてご意見を聞かせてください。

○渡辺医療政策部長 これまでも、西の京県有地の活用問題につきまして、地元の方々のご意見を丁寧に汲み上げて、今、中川医療政策部理事からも申し上げましたように、よりよいまちにしていきたいという、これも県の思いでもあります。しっかりと今後も自治会の方々のお声をお伺いしたり、奈良市の方々との意見交換をしたり、これまでどおりに充実した取り組みにつなげていきたいと考えております。以上です。

○荻田委員 はい、結構です。しっかり頑張ってください。それだけは絶対守ってください。

○池田委員 ただいま荻田委員から質問されました同じ立場から質問や意見を申し上げます。今、地元の意向を踏まえての県に対する要望といいますか、意見を、荻田委員からおっしゃっていただいたところでございますが、私も地元ということで、いろいろな声がかれまでも入ってまいりましたし、現在も入っております。

きょう午前中に説明会をされたということでございますが、まさに先ほど中川医療政策部理事から説明していただきましたように、ここに示されている奈良県総合医療センターが移転する強みを生かしながら、周辺地域と調和のとれたまちづくりを、基本コンセプトとしていただいているわけですから、ぜひ実現していただきたいと思っております。その

上で、先ほどもご説明がございましたが、この基本構想に基づく具体的な提案機能が地元にとっては非常に関心のある、注目されているところがございますから、ここをしっかりと踏まえていただきたいと私からもお願いしておきたいと思っております。

荻田委員からもご意見はございましたけれども、さらにこの基本構想に基づく、地元に対する還元と申しますか、地元と一緒に病院を中心に新しいまちづくりを進めていくのだという観点からこの選定委員に、地元の住民の代表を入れてはどうかと思っているのです。現在、選定審査委員会は、どなたがということは必要ございませんけれども、こういった方々で何名ぐらいで構成を予定されているのか、まずお聞かせいただきたいと思います。

○中川医療政策部理事 この募集にあたりまして、外部の専門の先生6名で委員構成をしております、この案の段階で6名の委員にも見ていただいております。構成につきましては、基本的にまちづくり、特に福祉のまちづくりご専門の先生、あるいは必須機能が病院機構の保育所や宿舎でありますので、病院機構からも1名入っていただく、あるいは少し定借の部分も出てきますので、公認会計士の先生に入っていただいて6名の委員で構成をしております。学識経験の方につきましては、6名のうち4名入っているのですけれども、そのうちの何名かは、昨年、平松地区のまちづくりのアイデアコンペの審査員をされていた先生に入っていただいておりますので、そういう意味では、あちらのコンセプトとこちらに近いものにしたいと言われる思いで審査員になっていただいておりますので、そういった目で審査をしていただけるものと期待をしているところでございます。以上です。

○池田委員 細かい話になりますが、この6名の委員の中で、奈良市にお住まい、あるいは奈良市の地域事情に詳しい方はおられますか。

○中川医療政策部理事 全員の方にヒアリングしたわけではありませんけれども、奈良市、あるいはこの地域のことについてもお詳しい方がほとんどでございます。

○池田委員 いずれにしても、地域の事情あるいは奈良市のことをいろいろ勉強したりとか実際お住まいであったとしても、当該地域に住んでいる目線と微妙にずれもございまずし、当然、地元の思いがきちんと反映、評価していただけるかというのは、荻田委員と同様に非常に心配なところでもございます。そういう意味で先ほど申しましたように、地元からぜひこのコンセプト、基本構想に基づく施設の提案機能を、よりよいものにしていくために、また実現していくために地元の委員を入れてはどうかと、提案させていただきたいと思っております。

工事が始まってから周辺には騒音や粉じんがありますとか、さまざまな大型車両、工事

車両の通行など、ある意味悪い影響をこれまではかけてきております。現在も周辺の整備がなかなか進まないという現状もある。いよいよ工事も本格化してきて、2年後には完成ということになるわけでございますけれども、完成しますと、当然、総合病院が校区内、地域内にあるということでもいい影響を与え、これを核として、中心としてまさに新しいまちづくりが進んでいくわけでございます。その新しいまちづくりをつくる中での地元からの要望でございますから、意見とさせていただきますけれども、ぜひ前向きにご検討いただいて、よりよい跡地活用になりますようによろしくお願ひしたいと思います。以上です。

○大国委員 1点質問をさせていただきます。

まず、今、荻田委員、また池田委員からお話ございましたけれども、私もできるだけ地元の皆さんのお気持ちが入ったまちづくりになるように願っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

1点お聞きしたいことは、病院へのアクセス、特段、公共交通機関でございますバス路線の協議状況についてお尋ねしたいと思います。

さきの6月の議会で知事からは、近鉄学園前駅からのバス路線について、運行ルート等について協議を行っているという答弁がございましたけれども、当委員会でも繰り返し議論してきたこともございますし、またそういうお声もいただいてまいりましたので、改めてどのような協議状況にあるのかをお尋ねしたいと思います。

○蘆村新総合医療センター建設室長 近鉄奈良線沿線からのアクセスということで、近鉄学園前駅から新病院へのバスアクセスにつきまして、奈良交通と継続して協議を進めております。奈良交通からは、新病院へどの程度の方が来られるのか、予想がつきにくい部分があるというご意見もいただいております。想定されます通院患者の数あるいは病院の職員の数、また病院を利用される方の数、そういった最新のデータを、運営をいたします病院機構で精査していただいております。今後、病院機構と連携しながら、奈良交通と協議を進めていきたいと考えております。現在、バス運行につきまして、奈良交通とは平成28年度末をめどに協議を進めていこうということで確認しているところでございます。引き続きまして、患者の利便性の確保、バス路線の確保につきましては積極的に取り組んでいきたいと考えております。

○大国委員 採算性ということでこれまでも答弁をされてまいりましたけれども、先ほどおっしゃっていただいた患者、あるいは家族の方の立場というものをよくよく中心に置いていただいて、もちろん損をしてまでという話を民間業者はいたしますけれども、県の立

場としては、そうではなくて患者を第一に考えるということでありますので、その辺の交渉の内容も、県としてはどこまでするのかという、こちらが主体だということでもぜひともご協議をお願いしたいと思います。今の奈良県総合医療センターへも近鉄学園前駅からバスに乗って毎朝いらっしゃる方も見受けられますし、そういった方たちのお心を感じると、検討しましたけれども、採算が合わずにだめでしたということでは、説明がつかないと思います。周辺のまちが随分変わってきたことも含めて、これは総合的な判断が要るかもわかりませんが、近鉄奈良線からのバス路線は何としても確保するのだという強い決意が要るのかと。何か奈良交通に非常に気を使っていらっしゃるような思いもいたしますので、県としての思いというのは、どうでしょう、医療政策部長なり医療政策部理事でありますか。お願いします。

○中川医療政策部理事 これはまさに大国委員がおっしゃっているとおりでして、我々も、車で利用される方の利便性はもちろんですけれども、バスのアクセスについても最重要な課題と思っております。もう少し病院機構、県とタイアップしながら、周りの環境もかなり変わってきておりますので、今、報告させていただきましたように来年度末にはめどをつけたいと思っておりますので、次年度に向けて、力を入れて奈良交通と具体的な詰めをしていきたいと思っております。

○大国委員 ありがとうございます。ぜひとも前に進むようによろしくお願ひしたいと思います。以上でございます。

○山村委員 それでは、少しお聞きしたいと思います。

これまでもこの委員会で何度も議論をしておりますけれども、病院跡地活用のまちづくりについてですけれども、住民の皆さんが主体的に参加されて、自分たちでどんなものが必要か、どういうまちづくりをしていくのか、積極的に参加していただくことが不可欠だと思っております。この点に関しては、県でもまちづくり協議会を開いていただいて、これまで取り組んでこられていることは知っておりますが、期間が迫ってくる中で、住民の皆さんが積極的に参加するという環境をつくっていくためにも、改めてまちづくり協議会にかかわらず、地域の広い関係者の皆さん、住民の皆さんから意見を聞く場を設けるとか意見交換会を持つとか、そういうこともされるべきではないかと思うのですが、その辺についてどのようにお考えになっていらっしゃるのかを1点伺いたいと思います。

もう1点につきましては、近鉄西ノ京駅から新病院へのアクセスの改善についてですけれども、これもこの委員会でもご答弁いただいて、計画があるということで進めていただ

いていると伺っているのですが、2年後には完成という状況になってきている中で、目に見えて地域の中で変化が生まれているとは映っていないようで、多くの方々がどうなっているのかと心配をされている声も聞いておりますので、進捗の状況を伺っておきたいと思えます。

それから、もう1点ですけれども、先ほど報告がありました西の京の県有地の計画ですけれども、ご説明の中で必須要件として上げておられた中に、病院職員の住宅の建設がありました。説明では、主に研修医などを対象とするとお聞きしたと思うのですが、看護師向けということではないのか、看護師の宿舎についてはどう考えていらっしゃるのかお聞きしておきたいと思えます。

○野村病院マネジメント課長 まず、最初のご質問、平松地区のまちづくりの住民参加についてお答えさせていただきます。

総合医療センター跡地のまちづくりにつきましては、まずは来年度夏ごろの基本構想策定に向けまして、奈良市や地元のまちづくり協議会などの協議を現在続けているところでございます。まちづくり協議会につきましては、現在の総合医療センター周辺地域におけます、これからの少子高齢化社会の進展を見据えたまちづくりにつきましては、平成24年5月に設立されたもので、地元団体の代表者が委員となりまして、地域住民の積極的な参加のもと、奈良市、そして奈良県の関係各課がオブザーバーとして参画しているものでございます。協議会の委員の人選につきましては、地元住民の中で行われておりまして、協議会の意見が地元を代表し、集約された意見であるものと認識しております。なお、協議会メンバーにつきましては、固定的なものではなく、協議の進捗状況に応じまして柔軟に拡大等をしていただけるものと考えております。

また、これは協議会ではございませんけれども、暮らしの保健室が、現在、定期的に動いております。健康相談、健康チェックなどを行っているところでございますけれども、こちらは地元ボランティアによる運営で、地元の住民の方々にご参加いただきまして盛り上げていただければ幸いです。以上です。

○本村地域デザイン推進課長 山村委員から、近鉄西ノ京駅から新奈良県総合医療センターまでのアクセス道路の進捗状況ということでお尋ねがございましたので、その部分についてお答え申し上げます。こちらについては、奈良市道の改良ということになりますので、奈良市とともに取り組みを行っているところでございますが、何カ所か課題になっている箇所がありますので、具体的にご説明申し上げます。まず、市道西ノ京六条線の現道部分

でございます。近鉄西ノ京駅から坂を上って下っていくところでございますけれども、そこにつきましては、沿道に家屋等が張りついている状態でございます。現道拡幅が非常に困難な区間でございますので、現道の安全性の向上をするための水路のふたかけであるとか道路敷地にある電柱の移設が有効な対策と考えております。現在の進捗状況でございますけれども、地元のご協力が得られた最も狭小な箇所、六条柳町バス停の西側の約30メートルの区間でございますけれども、今月でございますが、工事請負業者が決まったということで、電柱移設に係る電気通信事業者との工事調整によりまして、来年の1月中旬ごろから整備に着手する予定だと奈良市から伺っているところでございます。

続きまして、今の現道対策箇所のさらに西側でございますけれども、西の京交番がございます六条3丁目の交差点でございます。現状、ぐいちの形状になってございまして、見通しも悪く危険な状態でございますので、こういったぐいちの形状の改善、解消をした上で、右折レーンや歩道を設置する計画を考えております。

現在の進捗状況でございますけれども、奈良市で交差点詳細設計の委託の入札手続を行っている最中でございます。受注者が今後決定した後、速やかに設計を進めていく予定だと聞いております。それから、今の交差点の部分からさらに南の道路部分でございますが、国立病院機構奈良医療センターの前の道路拡幅の取り組みでございます。こちらについては、道路計画がまとまったところでございますので、県と奈良市が協力しまして、地権者や地元の関係者の方々に対して事業説明を実施しておりまして、ご協力が得られたところから用地測量や補償調査を進めるなど、重点的に取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

○中川医療政策部理事 3点目、西の京の県有地の職員宿舎の問題ですけれども、先ほど主に研修医と発言をさせていただきましたけれども、医師に限定しているわけではなく、主に医師、看護師かと思えます。ただ、現在勤務されている看護師にヒアリングを実施したところ、この病院の近くに固まって住まうということについては、希望されない方が多いということでございます。これも新病院になったときにどの程度になるか、人数もふえますので、それを見ながらということになるのですけれども、主に研修医の場合は不規則勤務になりますので、近場で必ず寝る場所が欲しいということで一定の数を確保する必要がありますので、現時点で48戸のうち相当数は研修医が占めるという想定をしているところでございます。以上です。

○山村委員 ご答弁ありがとうございます。

市道の問題につきましては、鋭意進めていただいているということで、開設するまでにでき上がるようお願いしたいと思います。

それで、住民の中からの参加ということですが、もちろんまちづくり協議会で代表の皆さんが熱心に協議されているということで、そのことに何の異論もなく、それはそのようにしっかりやっていただきたいと思っているのですが、そこにかかわらず、先ほどもありましたボランティアの方々の参加でありますとか、あるいは地域の中で病院の建てかえ問題を考える会という自主的な会もつくられたりして、いろいろな角度で意見を持たれていたり、少しでもいいものをつくっていきたいという熱意を持っておられる方もいらっしゃるの、そういうことも含めて、いろいろなご意見を伺う場があるということがより積極的な参加を促していくことにつながるのではないかと思うので、その辺のところをどうお考えになっていらっしゃるのかということです。

特に今進めている中で懸念しておりますのは、県の事業ということで奈良市も一緒に協議のテーブルに着いていただいて参加していただいておりますが、中身の問題につきましても、奈良市が主体的にやらないといけないことばかりだと思いますので、そういう点が非常に今のところ弱いように思うので、地元の住民の皆さんと奈良市という形で、もっと積極的なものにならないのかと思っているのです。その辺をお聞きしておきたいと思えます。

新しい病院の医師や看護師の体制ですが、どの程度の人数が新たに採用されるとか、どの程度の職員の皆さんが来られるのか、わかっているのでしょうか。もしわかっていたら教えてほしいです。以上です。

○中川医療政策部理事 1点目ですが、平松地区のまちづくりにつきまして、住民の方のご意見を取り入れていく、あるいはまちができたときに何らかの形でこのまちづくりに参加をしていただくという視点で、この協議会もぜひ進めていただきたいし、そのように発展的になればいいと思ってやっているつもりでございます。まだ我々が具体的な構想を示させていただいていないところもあって、このごろ協議会をやっている、ご意見が詰まってしまうところもありますので、ぜひこの点は、県で具体的なまちづくりのもう一歩進んだ絵を早く示せたらと。そうすれば、また地元の方に入ってきて、ご意見も出しやすいし、その時点で奈良市のかかわりの姿も少しずつ見えてくる。

今、県と奈良市で2つほど検討の枠組みを持っておりまして、まちづくりそのものの検討を進める会合と、それからそれ以外の少し幅広にアクセスまで含めたまち全体を考えて

いくハード面の整備も考えていかないといけないと、そういう2つ枠組みで内々に奈良市とは進めております。全体としてスケジュール感を持ちながら、次年度にかかると思いますが、我々の考え方を少しずつお示しをしながら具体的に地域の方のご意見が出やすいような進め方をぜひやっていきたいと思っております。

それから2点目ですけれども、新病院になりますと職員の数が相当ふえるという想定で今、人材の確保にかかっているところでございます。特に医師につきましては、現在も総合医療センターに、相当数の初期研修医、それから専攻医が入ってきておりますけれども、さらにふえるという想定をしております、それが最終どの程度でおさまるのかということになります。40名から60名ぐらいの研修医あるいは専攻医に入っただけだと想定をいたしております。また、看護師につきましては、これも確定した数はありませんけれども、540床の規模の病院になりますので、少なくとも看護師が600人以上要するという想定でしておりますので、フル稼働した際には看護師もその程度の数になると。そうすると、看護師だけで今より多分150人ふえると、大ざっぱですけれども、現時点ではそのぐらいの想定をしているところでございます。

○山村委員 わかりました。看護師と医師の数ということで、大体の想定はわかりましたので、そういう方々も含めての環境整備も考えていただきたいということを要望しておきたいと思っております。

それと、住民の皆さんの意見の反映ということで、県で計画はある程度示すことももちろんそうだと思うのですが、その示される計画が実は住民の意見を反映したものであるという裏腹の関係ですので、日ごろから住民の意見をいろいろな形で聞いていただくことに、一層取り組んでいただきたいと思っております。以上です。

○森山委員長 ほかに質疑ございませんか。

ないようですので、これをもって質疑等を終わります。

それでは、理事者の方のご退室願います。お疲れさまでした。

委員の方はお残り願います。

(理事者退室)

委員の皆様お疲れさまでございます。

引き続き、本日の委員会を受けまして、ただいまから委員間討議を行いたいと思っております。

ただいまお手元に、「病院を核としたまちづくり推進特別委員会（初度・9月事前委員

会取りまとめ)」を参考に配付しておりますので、お目通し願います。

当委員会の所管事項であります病院を核としたまちづくりの推進について、今後、特に議論を深めるべき課題である論点について、ご意見または討議を行っていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

ございましたら、ご自由にお願いたします。

○**荻田委員** 委員会は、ずっと継続してやっていくわけですが、先ほど山村委員がおっしゃったように、例えば平松地区における跡地利用の施設、西の京自動車学校、警察官舎も含めた跡地利用、こういったことが平成28年度末ぐらいになるとはっきりしていくだろうということ、今も中川医療政策部理事からお話がありました。しかし、新病院建設に向けてどんどんやっていく、医療政策部、病院機構が主になって医師、看護師の確保やそういうことに奔走している。これはよくわかるのですが、ただ面的な整備の中で、これから2つの施設跡地利用を含めるこの施設のあり方について、理事者のほうでスケジュール、どんな時点でそういうしっかりとしたメニューが示されるのか、こういったことも並行して、前を向いて進めていただかないと、委員会を今度2月にやる中で、あまり案件が出てこないのではないかと危惧しているのです。

(「そうですね」と呼ぶ者あり)

当時、初度の委員会でも委員会を設置するときに、病院の面的な整備と内的なソフト面、病院の中の話、こういったことにも特化してやらせてもらえたらということをお願いしていました。厚生委員会とも重複するような格好もございましたので、手控えをしているのですが、本来その話と両方するのが一番いい取り扱いになるのかとは思っています。これはそれぞれの委員がご意見をおっしゃっていただいたらいいと思うのですが、これから先のスケジュールをしっかりと理事者のほうで示していただくことをぜひお願いしたいと思うのです。

○**森山委員長** 今後のスケジュールについてですね。ご意見ありがとうございます。

ほかに今ございましたら。

○**山村委員** 今、荻田委員が言われておりましたけれども、ここで、まちづくりという話をずっとさせていただいているのですけれども、まちづくりが一向に進展しないというのか、県立医科大学につきましても、移転が終わった後でのまちづくりだから相当遠い先の話です。この委員会ですぐさま何か議論をするという中身にはとてもなり得ないし、しかも平松地区の病院跡地についても、病院が移転した後のことだからということで、割とゆ

つくり県は構えておられますし、奈良市を見ても、今どんどん進んでいくという状況になっていない。この委員会の議論が限られている中で、どうなのかということのを常々思っているのです。

例えば県立医科大学ということであれば、移転した後のまちづくりというだけではなくて、県立医科大学全体の今の状況についての議論とか、新総合医療センターは、先ほど看護師の人数も聞きましたけれども、そういうことと関連して、医療の中身がどうなのかという議論をすることも要るのではないのかという気はしているのですけれども。

そういうことも取り上げていくということではないかと思うのですが。

○森山委員長 そうですね。

○荻田委員 この中で厚生委員会と重複しておられる委員はおられますか。お二人だけ。小泉副委員長は委員長をやられたからいいけれども。例えば、新しい総合医療センターの医師、看護師の募集状況、人数を集めないといけないという思いで、どんどんやっておられるけれども。県立医科大学にしても医局そのものが、南和病院にも力を入れなくてはならない。そんな中で、なかなか医師の配置は大変な状況と聞いています。片や新総合医療センターの上田総長。

あちらは名古屋へ行ったり、経験者ですし、いろいろなことをおいでになるけれど、なかなかうまくいかないというようなことがあって。余談ですけども、箱はつくったが、中身はどうなっていくのだろうということになったら大変です。そればかり思うのです。救急搬送の病院になってしまうのではないか。

この委員会であまり前を向いて発言をしていく材料が出てこないものですから。

○森山委員長 そうですね、ハードとソフトと大体分けてあって、今のソフト面は大体厚生委員会で取り上げることでありますから。

○荻田委員 私は重複してもいいのではないかと思うのだけれど、理事者が関係あるので。詳しくは、新総合医療センターからも来ていただいたり。

○森山委員長 きょう答弁していただいた蘆村新総合医療センター建設室長ですね。

○荻田委員 だから、総長に来ていただいたり、新総合医療センターの榊理事長に来ていただく。そんな方々も来ていただいて、しっかりと向き合って、しっかりとした建物が運営、中も入れて、うまく立ち行けばいいのですが。どんな状況になっているのかということなんです。

○森山委員長 今の理事者の答弁で賄えないことがあった。

○荻田委員 それはもう、現在の委員会のやり方というのは、ハード面のものばかりですから。

○中川委員 私のほうでも、これはどちらの委員会かというようなこともありまして。新総合医療センターの工事の進捗状況についてという資料を、きのうか、おとといかにいただいたのですけれども、きょうの資料かと思って持ってきた。これは、どうも厚生委員会での報告だったみたいで、いろいろと縦割りの仕方もよくわからないという面もありまして、新総合医療センターについては、全部ここの委員会でソフト面も含めてできるようにするというの是一個かと思いました。厚生委員会は、確かに広く県の医療にかかわることではあるのだけれども、この新総合医療センターを除いた部分にするとか、そういった形ですみ分けするのも一個かと思いました。以上です。

○小泉副委員長 確かに論議をする上においたら非常に不自由な感じがします。そういう点で、私はそういうことも含めて論議をしたらいいのではないかと思うのですけれども、「病院を核としたまちづくり推進特別委員会」という名称であるわけです。だから、これを決めたところに戻してもらって、そういう内容も含めて名称も、例えば今出ている新総合医療センターの話、県立医科大学の話も少しありましたけれども、病院を中心とした問題で論議をするというような内容につくりかえてもらおうと。その中で、この問題を跡地の問題を含めて特化したような特別委員会にしてもらってはどうかと思うのです。今のままならば中身に入れないですから。

○荻田委員 それは、委員会を設置するときはどうしようかと、それもしていいのはいかと言っていたけれど、こういう形になっているわけです。

○小泉副委員長 だから、それは、もう1回はっきりと、各派連絡会でやるか、どこでやるか知らないけれど。

○荻田委員 こういう問題については、これからしっかりとした議論をしていこうと思ったら新総合医療センター、そして跡地になるところと、それから県立医科大学の研究棟の移設があって、そのまちづくり、この2つでやっているわけですが、ソフト面を入れるか入れないかということです。事務局長、どう思われますか。

○芝池事務局長 この特別委員会を設置するときに、荻田委員、山村委員でしたが、あのときも。

(「そうです」と呼ぶ者あり)

あのときも同じような話がありまして、基本的に厚生委員会が本来の受け持つ部分と特

別委員会が受け持つ部分、当然厚生委員会のほうがソフト面という話が基本になっていた。本来はハード面でどのようにつくっていくかというのが、この委員会の立ち上がりだったのですけれど、ハード面をつくるときに、ソフト面抜きにハード面だけで議論できるのかというお話もあって、それでは、厚生委員会で議論された内容の報告を求めていって、その中でハード面の話をここで検討するようなこともありました。そのときも荻田委員から、理事者が言える範囲で言ってもらえばいいのではないかということで落ちついたかとは思っています。

ですので、もし3つの施設に特化していくということであれば、一度、厚生委員会とのすり合わせをした上で、内容を明確にする作業、いわゆる議会として、決め直しをするしか手はないのかと。いつも初度委員会のために設置していますので、一度その辺をきちんと決めていって、次の初度委員会のために厚生委員会とすり合わせをしてはかがかかと思っています。いずれにしろソフト面の内容も知らずにハード面ばかりを、例えばバスの話はありかと思うのですけれども、まちづくりの中で、どのようなものかということを考える上で重要だご判断されるのであれば、さきほど中川委員からもあったように、ここだけ特化して、厚生委員会から切りとるというやり方がいいのかどうかということの議論をしていただいた中で、この委員会の設置目的を再度決め直していただくというのもありかかと思っています。そうすると、理事者も来てもらうメンバーが変わると思いますので、そういったことも含めた上で議論をしていただいたらどうかと思います。

○森山委員長 そうしてみましようか。

○荻田委員 委員長のほうでまとめてください。

○森山委員長 今のご意見を踏まえた上で、今後も協議を進めていくということ。進めながらまた、方向性も見えてくると思います。次の初度委員会のために。

○芝池事務局長 この委員会としての方向性を、厚生委員会とすり合わせをしていただいた上で、初度委員会のために再度、2年間はコンクリートですけれども、内容としてはどうなのだというのを、それぞれで決めていただくしかないのかと思っています。どうしてもソフト面がここでの議論で必ず要るということであれば、そういう話をしないと、この委員会そのものの成果が出ないことになります。

○荻田委員 特別委員長と、厚生委員長と、いろいろ協議もしていただいて、この件については、各派連絡会にも当然入っていくでしょうし。それぞれの会派で、いろいろな議論をしておいていただいたほうがいいかもしれません。

○森山委員長 そうですね。

○荻田委員 厚生委員会に入っておられない方もおられますので。

○森山委員長 この特別委員会の名称が、「病院を核としたまちづくり推進特別委員会」ということで、奈良市の病院と橿原市の県立医科大学付属病院の2つが大きなテーマでありました。前回の2年間は橿原・高市郡選挙区の議員がたくさんいましたけれど、さきほど山村委員が言われたように、県立医科大学の今後のまちづくりというのは、まだこれからだから聞けることがないのもわかっているのです。そうなると、新病院を核としたまちづくりにほとんど絞られてきている。それは進みながら、だんだん寄ってきているということとは感じるのですけれども。

(発言する者あり)

そうですね、進めながらこれがまた見えていくこともあると思いますので、今のご意見を踏まえた上で、また今後も協議を進めていくという形にしていきましようか。

それでは、そういう形で今後も進めてまいりたいと思いますので、お願いいたします。

それでは、本日はこれをもちまして委員間討議を終わります。どうもお疲れさまでございました。